



喜連川少年院を訪ねて



埼玉県青少年育成推進員 倉山 茂美

一月半ばに、栃木県の温泉地の山あいにある「喜連川少年院」へ視察研修に行ってきました。最初に1時間、院長先生の説明をお聞きし、その後、30分ほ

ど施設内を見学しました。先導の教官が鍵を開け私たちを通し、その後ろにいる別の教官が鍵を閉めながらの見学でした。その日、少年たちはグラウンド整備のため一輪車で土を運び、黙々と作業をしていました。その傍らには、じっと見守る教官の姿がありました。ここにいる少年たちの3分の1が埼玉県出身と伺い驚きました。教室では、溶接の授業が行われていました。他に、フォークリフト技術などの職業訓練が受

けられ、高校教育も通信で受けられるそうです。畑の方へ回ると、大根・長ネギ・ほうれん草が洗ってありました。出院の近い少年だけが、柵の外で農作業ができるのだそうです。その横に建つ少年たちの寮は、青い鉄格子がはめられていました。出院しても、2割の少年がここに帰って来てしまうのだそうです。この少年院には、16歳から18歳の少年たち17人が生活していました。彼らは、何らかの罪を犯し、ここに送致されて来たのだでしょう。そんな少年たちが、ここで作文やカウンセリングにより、自分の犯した罪を振り返

不良行為は心のささくれです！



寄居警察署少年係 持田 奈穂子

家出、無断外泊、喫煙、深夜徘徊などの不良行為。寄居警察署管内では、平成21年の不良行為による補導件数は前年比で減少しました。これは地域の皆さ

んの青少年健全育成へのご協力と、日ごろの学校関係者方のご尽力、子どもたちに「いい事・悪い事」を見分ける力があるという意味だと思えます。さて、犯罪の前には、必ず前兆として不良行為が見られます。小さなささくれも、対処が悪ければ膿んだり、完治に時間がかかったりすると同様に、子どもの様子を見て、言葉や服装の乱れ、不良行為のあるときこそ手当ての時期なのです。「手当て」というのは、治療という意味もありますが、傍ら

に座り患部に手を当てる。それだけでも、痛みが軽減されると言います。お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんから「痛い痛いの飛んできていけ」。そんなふうな幼いころ言われた保護者の方は多いのではないのでしょうか。「どこが痛いのか」と聞いて、「頭」と言いながら「おなか」を押さえる子どもがいます。子どもたちの「寂しい、不安、もどかしい」というような心のささくれを、身近にいる大人が知り、自分を表現するのが苦手な子どもたちの「手当て」をしてください。子どもたちの「愛された記憶」は生涯を通じての財産にな

ります。そして、その財産は大人になってからのささぎまなつらいことに「がんばろう」と立ち向かう勇気になります。最近、手がかからなくなったと言って、目も離してしまう家庭が増えつつあります。大事に至らないように手当ての時期を見逃さず、子どもたちに「愛された記憶」をたくさん刻めるように、私たち大人がしっかりと子どもたちを見ていくことが、将来の治安の回復や明るい社会への第一歩につながっていくのかもしれない。桜の花と共に新しい一年が始まる子どもたちが、元氣いっぱい自信を持って生活できるように願ってやみません。

有害な情報から子どもたちを守るために、フィルタリングをご存じですか？



子どもとインターネット

インターネットの普及により、私たちの生活は便利になりました。現在は、パソコンだけではなく、携帯電話からもインターネットに接続でき、さまざまな情報を得ることができます。表1は、警視庁が平成20年に都内の中学生を対象に行った、携帯電話でのインターネット利用時間の調査結果です。保護者は、防犯や家族との連絡用として、子どもに携帯電話を持たせませんが、実際には多くの子どもたちが、携帯電話でインターネットを利用していることがわかります。

インターネット上の有害な情報

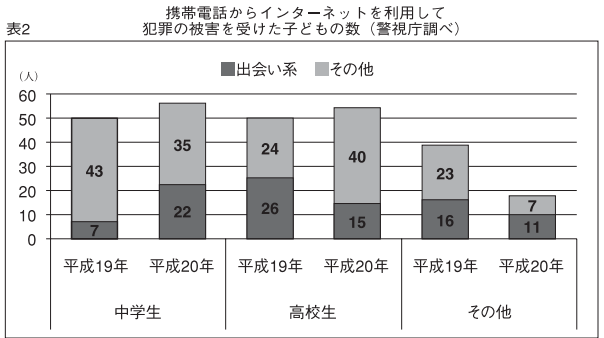
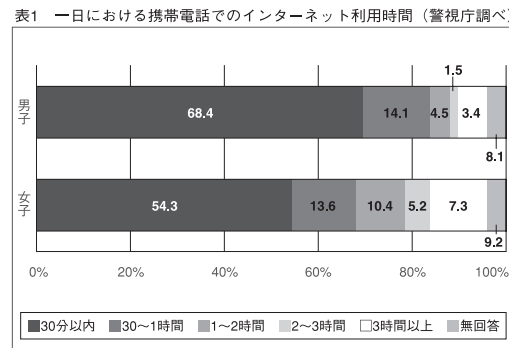
いまや日本だけではなく世界とつながるインターネットには、便利な情報や有益な情報がたくさんあります。その一方で、子どもにとって有害な情報もたくさんあります。

- 子どもにとって有害なサイト
 - アダルトサイト(ポルノ画像や風俗情報)
 - 出会い系サイト
 - 薬物や毒物の情報を載せたサイト
 - 自殺や家出に誘うような情報を載せたサイト
 - 犯罪を助長するようなサイト
 - 暴力などの残虐な画像を集めたサイト
 - 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイトなど

これらのサイトは、携帯電話のインターネットからも簡単に検索して、見るができます。

インターネットの利用による犯罪被害

インターネットを利用することで、子どもたちが犯罪被害にあうことが増えています(表2)。出会い系サイトでは、名前などを隠したままさまざまな異



フィルタリングを活用しよう

プロフィールを載せたページを作成し、そのページにアクセスした人が自由に閲覧できるサイト

インターネット上の有害な情報から、子どもたちを守る有効な対策の一つに、フィルタリングがあります。フィルタリングとは、インターネットに接続した際、特定のサイトへアクセスできないようにする機能で、「有害サイトアクセス制限サービス」とも言います。フィルタリングを利用することで、出会い系サイトやアダルトサイト、暴力的な表現のあるサイトなど、犯罪やトラブルの原因となりうるサイトを子どもが見られないように制限することができます。

パソコンでのフィルタリング

パソコンでフィルタリングをするためには、フィルタリングソフトが必要です。市販のフィルタリングソフトをインストールする方法や、プロバイダーが提供しているフィルタリングサービスに加入する方法などがあります。

現在では、各家庭で表示禁止にしたいページの種類を選べるソフトもあります。各フィルタリングソフトメーカーや加入しているプロバイダーにお問い合わせください。

フィルタリングと保護者の目

フィルタリングは、インターネット上の各サイトの内容を一定の基準で評価・判別し、違法・有害な内容のものを選択的に排除します。しかし、フィルタリングの対象とならず、子どもが自由に閲覧できるサイトの中にも、見知らぬ相手とメールのやりとりができるサイトがありますので、注意が必要です。子どもがインターネットを利用する際には、フィルタリングの活用に加え、常に保護者の目で「今子どもが何をしているのか」を確認し、子どもが安全にインターネットを利用できる環境を整えていくことが大切です。